

千鳥橋病院

総合診療専門研修プログラム〈ダイジェスト版〉

2020年4月

千鳥橋病院総合診療専門研修プログラム管理委員会

【専攻医へのメッセージ】

当院には福岡市博多区で長年地域医療を支えてきた、先輩医師が多くいます。今は専門の医師をしている先生も診療所での所長経験があったりします。総合病院で外来・病棟・救急外来・訪問診療などさまざまな経験ができます。将来の病棟総合診療専門医と診療所所長のどちらをも養成しています。研修終了後も、当法人内で、さまざまな横断的チームのマネジメントや後輩育成、健康増進の取り組みなどで活躍していただく機会が多くあります。みなさんの研修をお待ちしています



1. 千鳥橋病院プログラムの特徴・概要

① 専攻医の環境

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・常勤医師として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署があり、「こころの相談室」および臨床心理士設置している。
- ・ハラスメント委員会が整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・病院敷地内院内保育所があり、利用可能である。



② プログラムの環境

- 指導医は4名在籍している。
- 千鳥橋病院総合診療専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、研修委員長、ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。
- 専攻医の日常的な状況把握とプログラム運営に関わる総合診療科研修委員会（事務局の役割）を設置する。
- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2019年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。
- 研修施設群合同カンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的



保障を行う。

- CPC を定期的で開催（内科系 2019 年度実績 7 体、2018 年度実績 11 体）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。
- 地域参加型カンファレンス、在宅カンファレンス、臨床倫理 4 分割法カンファなどを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。
- プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。
- 日本専門医機構による施設実地調査に千鳥橋病院総合診療専門研修プログラム管理委員会が対応する。
- 連携施設（米の山病院、みさき病院、名古屋大学医学部附属病院など）の専門研修では、テレビ会議システムなども利用し、千鳥橋病院でのカンファレンス・面談などにより、指導医がその施設での研修指導を行う。



③ 学術活動の環境

- ・臨床研究に必要な図書室を整備している。
- ・倫理委員会を設置し、定期的を開催している。
- ・千鳥橋病院学術支援センターによる臨床研究に関する学習会を開催している。

④ 外来・入院患者数

- ・総入院患者(実数) 3,959 名(年間)
- ・総外来患者(実数) 104,272 名(年間)

⑤ 経験できる技術・技能

研修目標及び研修の場（別紙）にある総合診療専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

2. 指導医体制千鳥橋病院プログラムの特徴・概要

有馬 泰治 （統括責任者）
山本 一視 （総合診療研修Ⅱ責任者）
豊田 文俊 （内科研修責任者）
中司 貴大 （救急科責任者）
山口 英里 （小児科責任者）
三浦 英男
竹内 宏樹

○連携施設担当委員

たたらりハビリテーション病院 平田 済 （緩和ケア指導医）

大手町病院 山口 征啓 (内科指導医)
 米の山病院 佐田 耕一郎 (内科指導医)
 福岡徳洲会病院 平田 雅昭 (小児科指導医)
 名古屋大学医学部附属病院 佐藤 寿一 (総合診療研修Ⅱ)

3. 千鳥橋病院総合診療専門研修施設群

<千鳥橋病院総合診療専門研修プログラム (ローテート例) >

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	千鳥橋病院						千鳥橋病院/ 大手町病院/ 福岡徳洲会病院			千鳥橋病院/ 福岡徳洲会病院		
	領域	総診Ⅱ						救急			小児科		
2年目	施設名	千鳥橋病院						千鳥橋病院/ 鹿児島生協病院			千鳥橋病院/ 鹿児島生協病院		
	領域	内科						内科			内科		
3年目	施設名	千鳥橋病院、 たたらリハビリテーション病院 (外科、耳鼻科、産婦人科、緩和ケアなど)						診療所 (選択)					
	領域	総診Ⅱ (選択研修)						総診Ⅰ					
4年目	施設名	みさき病院						米の山病院					
	領域	へき地医療						へき地医療					

※特記事項：総合診療Ⅰ（診療所）の研修は千代診療所、粕屋診療所、大楠診療所、城浜診療所、神野診療所、大島診療所、にのさかクリニック、奄美中央病院から選択でき研修医の到達状況を考慮しながら研修をおこなう。

<プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長>

当院では、病院の総合診療科を中心とし、各専門科と共同しながら基礎的な臨床能力を身につける初期研修を行っています。また、1年次に往診、2年時に外来診療を行いプライマリな能力を身につけることに力をいれていきました。わたしたちがめざす総合診療専門研修では、その基礎的臨床能力に加え、広範なフィールドを活かしたプライマリ・ケア能力を高める研修を行います。

2年間では不足する内科的能力に関しては一定期間をとって選択研修を行います。また、プライマリ・ケア医に必要な小児科・産婦人科のスキルアップもはかります。外来診療・往診などの経験ができます。緩和ケア指導医のもと緩和ケア病棟での研修もできます

その後、診療所での副所長経験を通して地域の健康づくり、プライマリ・ヘルスケアを実践し、またチームリーダーとしての成長、マネジメント能力の向上を目指します。病院と診療所では日常的

な連携をとっておりカンファレンスなどを通して所長・病院専門医との相談を気軽に行うことができます。診療所では患者会などの活動もあり、まさに地域に育てられる研修を体験できます。

<総合診療専門研修プログラムでの研修修了後のアウトカム>

～プライマリ・ヘルスケアを継続的に提供できる家庭医となり、診療所の所長ができる～

① マネージメント能力の習得

- ・ プライマリ・ケア医としての力量（＝地域に住んでいる人々の一般的な医学問題を解決できる知識を修得し、専門医への紹介を含めたマネージメントをできる能力）を身につける。

② コミュニケーション能力の習得

- ・ 患者さんや地域の人たち、医療・介護スタッフとの良好なコミュニケーション能力を身につけ、診療所の運営にも責任を持ち、患者さんを中心とした医療チームのリーダーとして信頼される医師となる。

③ プライマリ・ヘルスケア

- ・ 地域住民の健康を守る実践家として、病院や診療所に来る人だけでなく、その家族や地域の人々の健康を維持・増進し、すみよい街づくりに貢献できる。また医療機関に受診できない病人にも目を向けることができる医師となる。

④ 専門医の取得と生涯学習

- ・ 4年間の研修中は、生涯学習者としてあり続けるための基礎を身につける。4年間を通じて、1つのテーマを設定し研究を行い、学会にて発表する。また総合診療専門医の取得準備を行う。

⑤ 教育技法の習得

- ・ 4年間の研修中に教育者となるための基礎を身につける。学生や研修医に対して1対1の教育およびテーマ別のセッションが企画・実践できるように、ワークショップや学習会への参加を通じて、教育技法を習得する。

4. 募集専攻医数および募集・採用の方法（予定）

- ・ 千鳥橋病院総合診療専門研修プログラムの募集専攻医数は1学年4名とする。
- ・ 千鳥橋病院総合診療専門研修プログラム管理委員会は、毎年7月から説明会等を行ない、専攻医を募集する。翌年度のプログラムへの応募者は、11月31日までに千鳥橋病院のホームページの医師募集要項に従って応募する。
- ・ 原則として11月中に書類選考および面接を行い、千鳥橋病院総合診療専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知する。

問い合わせ先：千鳥橋病院医局事務部

E-mail : ch-igakusei@fid.jp

HP : <https://www.chidoribashi-hp.or.jp/>